

平成26年度 近江八幡市次世代育成支援後期行動計画（重点施策）事業評価について

項目	方向性	施策	事業名	(総括) ○成果・■今後の方向性
(1) 安心して子育てができる地域づくり	<p>子育て世代にとっては、近年、少子化、核家族化等を含む地域、社会環境の変化、経済状況の不安定さ等、子育てしにくい様々な状況があります。子育て不安の緩和や負担感の軽減を図るとともに、親自身が、子育ての楽しさを感じ、仲間とつながっていけるよう身近な地域における子育て支援にかかる関係機関、保護者を含む団体、支援者が、一体となってネットワークを充実強化させ、対応していくことが重要となってきます。</p> <p>すべての子育て家庭が、地域で、のびのびと安心して子育てでき、子どもの人権が尊重され、健やかに子どもが育つ地域づくりをめざしていきます。</p>	居宅サービスの充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもセンター運営事業（3カ所）</li> </ul>	<p>○情報発信・交流・相談の機能を持った子育て支援の拠点として、子育て家庭の居場所づくりができた。また、子どもだけを育てる支援だけでなく、親もともに育つ「親育ち子育て広場」事業を八幡子どもセンターにて実施した。</p> <p>■各関係機関で行われている子育て支援との連絡調整を図り、子どもも親も育つ事業を各子どもセンターにも広げて行く。ニーズに応じて利用の選択ができる支援を進めていく。</p>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>ファミリー・サポート・センター事業（1カ所）</li> </ul>	<p>○ファミリーサポートセンター事業は、保育施設への送迎や一時預かりなどの育児援助を受けたい人で行いたい人の相互活動を支援する事業である。H26年度の活動件数は1294件と減少しているが、病児病後児保育等は増加しており、利用内容による増減が見られた。また、会員の拡充については、広報などにて周知し、募集、育成を図った。</p> <p>■ニーズ調査から認知度に比較して利用率が低い結果があり、更に広報活動を充実し事業の周知を図るとともに、利用拡大を図ることが必要である。</p>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>子育て支援事業</li> </ul>	<p>○子育て情報誌（ハチピースタイル）の改訂版を発行し、子育て中の方やこれから子どもを産み育てる方、他市から転入されてきた方に市内の子育て支援の事業を周知した。地域の子育て情報を求めている家庭にとって、有効な情報となった。</p> <p>■子育てに役立つ情報の充実とSNS等を利用した発信方法を検討していく。</p>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>園庭開放 公私立幼稚園・保育所（園）</li> </ul>	<p>○各園所にて、月1～2回程度の園庭開放を行い、親子の触れ合いや仲間づくりにつながるよう取り組んだ。</p> <p>■他の関係機関と遊びの提供が重ならないように調整し、継続していく。</p>
		地域子育て支援拠点事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>ひろば型事業（市内6カ所）</li> </ul>	<p>○平成20年度に地域の子育て支援の拠点施設として設置した子どもセンターを含む施設は、H26年度に市内8カ所の子育て支援施設に発展した。独自の子育て情報誌の発行や市広報誌・市ホームページ等で事業情報を発信した。子どもセンター等においては、3歳未満児の家庭を中心に、各機関の地域特性及び親育ちの視点を活かした子育て支援事業や、子育ての不安や悩みの相談を実施し、子育て不安の緩和や負担感の軽減につなげることができた。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>センター型事業（市内2カ所）</li> </ul>	<p>■今後は、不安解消や負担感の軽減を図るだけでなく、親自身の子育て力向上や子どもだけでなく、親育ちの要素を取り入れた事業等の展開を図り、地域での子育て支援の拠点として更に充実していく。</p>	
		情報・相談体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>子育てに関わる相談</li> </ul>	<p>○子育て相談日を設けたり、電話での相談や来館時の何気ない会話の中から、あらゆる機会を通して、子育て家庭の悩みや不安に耳を傾けてきた。また、同じ悩みを持つ子育て中の親同士を結び付けていくことで、悩みの解決にもつなげることができた。</p> <p>■相談の多様化により、関係機関との連携の必要なケースが増加している。悩みや相談を適切な窓口につなぐワンストップ窓口としての利用者支援員の配置が望まれる。また、子育て支援施設に出向けない、保護者に対してはこちらから出向き、悩みに耳を傾ける「傾聴と協働」のホームスタート事業の活動展開を目指す。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>子育て情報の提供</li> </ul>	<p>○子育て支援をはじめ、母子保健や医療、福祉、教育など市民が必要としている様々な子育てに関わる情報を各担当課との連携の下、市の広報やホームページ、事業チラシなどで知らせた。また、「近江八幡市タウンメール」にてその時々につけていきたい病気の予防や対処、子どもの成長に応じた寄り添い方などを「子育てワンポイントアドバイス」として発信した。</p> <p>■現在の子育て世代が、情報を得やすくするために、各連携機関と連絡を密にし、様々な媒体を使って情報発信をしていく。</p>	
		子育て支援者のネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>子育てにかかる人材育成講座</li> </ul>	<p>○子育て支援者のための人材育成を図るため、研修会や、既存の子育てサポーターのスキルアップ研修を開催した。</p> <p>■少子化や核家族化の進行、また、地域のつながりの希薄化等により、子育て家庭の不安や育児負担が増えている。子育ての孤立化が進む中、このような社会では、今後も地域での子育てを支援していく人たちの育成が必要である。次年度は新規の子育てサポーターの募集・育成をめざす。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>中学校区子育て支援ネットワーク会議</li> </ul>	<p>○中学校区別に年4回（安土学区は単独で1回）ネットワーク会議を開催し、子育て支援関係者の情報交換や課題の共有のための研修等を行い、地域の子育て支援について連携した。</p> <p>■顔が見える関係機関の連携として、今後もネットワーク会議を継続して開催し、内容を充実させていく。</p>	
		健全育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>青少年活動団体への支援</li> </ul>	<p>○市内の児童団体（ボーイ&amp;ガールスカウト）に活動補助金交付や助言・情報提供を行い、地域の力による青少年育成を支援した。市内の子ども会の育成団体と連携し、地域での健全な児童の育成を支援した。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども会育成者連合会活動</li> </ul>	<p>■今後も、団体の自立した活動につながるよう支援することで、地域の力による児童の健全育成環境を構築していきたい。</p>	

項目	方向性	施策	事業名	(総括) ○成果・■今後の方向性
(2) 保育サービスの充実にむけた取組の推進★	<p>「仕事と生活の調和」の実現にむけては、就労と出産・子育てを両立させていくために、様々な保育サービスが必要となってきます。多様化する就労形態やニーズに対応すべく体制を整備していくことが必要です。</p> <p>特に、保育所の待機児童解消にむけては、定員の計画的拡充を図っていきます。</p> <p>また、病児・病後児における保育サービスの実施、認定こども園の取組を実施していくとともに、幼稚園の預かり保育などの取組を推進していきます。放課後児童クラブにおいては「近江八幡市放課後児童クラブ設置運営基準」に基づき、環境整備・充実に努め、子どもの安心・安全な放課後の居場所確保に努めていきます。</p>	保育サービスの充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通常保育事業</li> </ul>	<p>○毎月、入退所児童を把握し、保育要件を確認のうえ入所審査を行い、適正な入所を実施した。</p> <p>■保育施設等の整備や保育の必要性の見極めをし、待機児童数の減少をめざす。</p>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・延長保育事業</li> </ul>	<p>○全ての保育所(園)において、30分から2時間の延長保育を実施し、平成26年度より、公立保育所・こども園における土曜日の保育時間を30分間延長した。</p> <p>■平成27年度から新制度も施行され、認定状況・利用状況等について確認を行うとともに必要性を把握する。</p>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園における預かり保育</li> </ul>	<p>○島幼稚園・馬淵幼稚園・老蘇幼稚園で実施した。</p> <p>■今後の就学前教育・保育の方向性を検討する中で、幼稚園における預かり保育のあり方についても協議を要する。</p>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・民間保育所施設整備事業</li> </ul>	<p>○安土保育園分園(定員30名)として、安土保健センターを整備し7月に開園した。</p> <p>■施設整備の補助制度を有効に活用し、こども園や保育所等の新增設を図る。</p>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・認定こども園の運営</li> </ul>	<p>○認定こども園が市内で2園、更に平成27年度開園に向け、民間の認定子ども園が整備された。共に3歳以上児の合同保育を実施していく。保育の必要性の有無に拘らず、同じ園で同じ保育が受けられることが利点である。</p> <p>■子ども子育て支援新制度施行に伴い、待機児童解消に向けて今後についても検討していく。</p>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・病児病後児保育</li> </ul>	<p>○西川小児科医院に委託し、延べ382名の利用があり病児病後児保育を実施した。</p> <p>■保護者の就労支援の観点からも継続して取り組み、拡充を図る。平成27年度には量の拡充を図る。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後児童健全育成事業</li> </ul>	<p>○市内放課後児童クラブ(20クラブ)に対して、放課後児童健全育成事業の委託を行った。放課後児童の健全な成長、ならびに就労する保護者への仕事と家庭の両立支援を図った。</p> <p>■利用者の増加が見込まれる小学校区において増設を検討する。あわせて子ども子育て支援新制度による、放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準条例に従い、安心・安全な居場所確保に努める。</p>	
育力成の生きる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育・保育の充実</li> </ul>	<p>○市内の保育所(園)・幼稚園・認定こども園において公開保育を実施し、教育・保育内容の充実や乳幼児の生きる力を育むための実践交流など研修を深め教育・保育の充実につながった。</p> <p>■今後も公開保育等による研究協議を開催し、保育士・保育教諭・教員の資質の向上を図る。</p>		
項目	方向性		事業名	(総括) ○成果・■今後の方向性
(3) 児童虐待の防止にむけた取組の推進◆	<p>本市における児童虐待件数は、年々増加傾向が見られます。その背景には、保護者の養育力の低下、経済力の不安定さ、心の病気等によるものが考えられます。児童虐待への対応は、被虐待児童を早期に発見し、安全確保することだけでなく、被虐待児童を取り巻く保護者や家族に対するサポートを行い、家族関係の再構築を行うなどの支援を行う必要があります。</p> <p>児童虐待防止にむけて、虐待予防から早期発見、支援、アフターケアまで総合的な取組が展開できるよう、保健・福祉・医療・教育等の幅広い分野の関係機関(者)との連携を強化し、要保護児童対策地域協議会の機能の充実を図ります。また、児童虐待の未然防止の観点からも、「こんにちは赤ちゃん事業」や「養育支援家庭訪問事業」等連携強化に努め、対応していきます。</p>	児童虐待防止対策の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近江八幡市要保護児童対策地域協議会</li> </ul>	<p>○児童虐待防止・早期発見等に向け、関係機関の連携体制を継続している。また、市民や教育関係者などへの啓発を行った。</p> <p>■行動計画(「児童虐待防止に向けた取組計画」)に基づき関係機関が取り組み、進捗管理を行うことでリスクの高い家庭を支えていく。また、児童虐待防止に関する各種機関に対する啓発を実施することにより、市全体として児童虐待防止に関する意識向上を図る。</p>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・養育支援家庭訪問支援事業</li> </ul>	<p>○以前より継続していた育児家庭訪問支援事業を組み換え、事業の基盤整備を行った。</p> <p>■育児の孤立化や子育て負担感の増加、親の精神疾患などから、適切な養育ができない家庭は潜在しているため、対象となり得る家庭が事業利用につながるようにタイミングよく働きかける必要がある。</p>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども家庭相談室事業</li> </ul>	<p>○児童虐待の早期発見、初期対応、関係機関との連携など、児童虐待ケースのマネジメントを継続して担った。</p> <p>■児童虐待ケースは件数が年々増加しているだけでなく、多くの課題を抱えた対応困難ケースも増加している。そのため、職員の専門性や対応力・スキルを研修により高めること、関係機関との細かな連携体制も継続していくことが必要である。</p>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て短期支援事業(ショートステイ事業)</li> </ul>	<p>○現在市内では、子育て短期支援事業を実施している事業所がない。</p> <p>■子育て環境の変化により、一時的に子どもを預かってほしい等のニーズがあり、市内に対応できる施設が必要と考える。今後、関係者等と連携・協議しながら、設置に向けての検討が必要である。</p>
		子どもや確母保親の健康の	<ul style="list-style-type: none"> <li>・親支援講座「ママトーク」</li> </ul>	<p>○育児不安や育てにくさを感じている保護者、子どもとの関わりを考えたいと感じている保護者を対象に「ほめ方教室」を実施した。講義や保護者同士のグループワーク、ホームワークを実施することで子どもへの関わりを振り返りながら、子どもの発達や行動、関わり方について理解を深めることができた。</p> <p>■保護者が教室終了後も子どもへのよりよい関わりを継続していけるよう関係機関および地域でのフォローアップ体制の検討が必要である。</p>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児育成指導事業「親子教室 ぴっころ」</li> </ul>	<p>○昨年度に引き続き、プレ療育教室として開催。発達検査を必須とし、療育検討が前提となったことで、実施内容が「微細」「粗大」「保護者への動機づけ」「個別の課題対応」と組み立てやすくなり療育との連携も円滑となった。</p> <p>■療育には託児がなく、兄弟姉妹のいるケースでも通所が可能なように子育て支援全体の問題として考えていく。また、増加している虐待等要支援対象児への対応や居場所作りの課題があり、関係課との事業連携や協働化に向けた協議が必要。</p>